

おれんげニュース

No.239

2010年2月号

白馬村岩岳山頂より白馬連峰主峰

★集会・委員会・行事関係のお知らせ★

★山行の一步は会合から★

	2月			3月		
運営委員会	9日(火)	19:30~22:00	西諫早公民館	9日(火)	19:30~22:00	西諫早公民館
ひまわり集会	5日(金)	13:30~15:30	西諫早公民館	5日(金)	13:30~15:30	西諫早公民館
全体集会	23日(火)	19:00~22:00	西諫早公民館	23日(火)	19:00~22:00	西諫早公民館



マイナス4度C

冬山賛歌

雲仙普賢岳・国見岳

2009 12/20



普賢山頂



雪と氷の芸術



紅葉茶屋からの景色



多良岳権現神社にて

2010/01/10



2月の山行計画

部	技術研修部	ひまわり山行部	山行部	自然保護部	技術研修部
月 日	6(土)～7日(日)	9日(火)	14日(日)	24日(水)	25日(木)
山 名 (行事)	向坂山霧氷登山	今村梅林	八面山	竹崎半島一周	のけぼしやま 仰烏帽子山
地 図	五ヶ瀬	諫早	大分県耶馬溪	肥前大浦	球磨
集合出発	JR 諫早駅裏 6:00	ふれあい会館 8:00	JR 諫早駅裏 6:00	JR 諫早駅 7:54 発	JR 諫早駅裏 6:00
	JR 西諫早駅 6:10		JR 西諫早駅 6:10		JR 西諫早駅 6:10
帰着時間	19:30 頃	16:00 頃	19:30 頃	16:00 頃	19:00 頃
歩行時間	5 時間程度	7 時間程度	5 時間程度	5 時間程度	4 時間程度
難 易 度	初心者	一般向き	初心者	初心者	一般向き
交通手段	マイクロバス	徒歩	マイクロバス	JR	マイクロバス
宿泊施設	バンガロー 又は温泉旅館	日帰り	日帰り	日帰り	日帰り
温 泉	有り	なし	有り	なし	有り
参 加 費	民宿:14,000	無料	5,000 円	各自負担	5,000 円
申込期限	1 月 12 日	1 月 26 日	1 月 26 日	1 月 26 日	1 月 26 日
集 約	佐原	江崎	田中	水江	佐原
備 考			修験の道	肥前大浦で下車 帰りは肥前大浦 15:37 発	咲き始めの福寿草 を愛でる 
感想提出	2/15(月)まで	2/15(月)まで	2/23(火)まで	3/2(火)まで	3/3(水)まで

諫早の干拓地に今年も100羽近くの鶴が飛来しています。写真はマナヅル





3月の山行計画

部	技術研修部	ひまわり山行部	山行部	自然保護部
月 日	14日(日)	19日(金)	28日(日)	31日(水)
山 名	大分県由布市 熊群山(804, 9m)	熊本県 玉東の山 三ノ岳～二ノ岳	福岡県 福知山(900m) 鷹取山(633m)	大村市 野岳湖と桜道歩き
地 図	豊後今市	伊倉・植木・肥後船 津・熊本	金田	諫早・大村
集合場所	JR 諫早駅裏ロータリー 6:00 JR 西諫早駅 6:10	西諫早駅前 7:00	JR 諫早駅裏 6:00 JR 西諫早駅 6:10	JR 諫早駅 9:02 竹松駅 スタート
帰着時間	18:30 頃	18:00 頃	19:30 頃	17:00 頃
歩行時間	4 時間		4 時間程度	5 時間
難 易 度	一般向き (鎖場有り)	初心者向き	一般向き	初心者向き
交通手段	マイクロバス	マイカー	マイクロバス	J R と 徒 歩
宿泊施設	日帰り	日帰り	日帰り	日帰り
温 泉	有り	有り	有り	なし
参加費	5,000 円	フェリー代・ガソリン代等	5,000 円	実費
申込期限	満員になり次第〆切	3月12日(金)まで	満員になり次第	25日(木)
集 約	佐原	江崎	田中	水江
備 考	歩行時間は短いですが、難所の鎖場有り。雨の日は危険。	行程 西諫早駅～多比良港～長洲～天水みかん展望台～ループ橋～玉東展望台～三ノ岳～二ノ岳玉東展望台(帰路は往路に同じ)	虎尾櫻鑑賞	コース距離：14km シュシュ裏見の滝 —野岳湖公園 —松屋旅館 —松原駅 —途中 桜・カッパ像など
感想提出	3/23(全体集会) まで	3/30日(火)まで	4/7日(水)まで	4/10日(土)まで

技術研修部から

岩登り 2月18日(木)・28日(日)
セルフレスキュー 2月27日(土)



県連写真展実行委員会から

作品展示場所
長崎市浜町「石丸文行堂4階ギャラリー」
展示期間
3月1日(月)～3月7日(日)まで



12月・1月の山行報告

12月12日(土)～13日(日)

津波戸山(529.4m)、中山仙境(316.9m)

<参加者> (CL)川原 (SL)中須賀 (SL)佐原 (PL)国分 (PSL)松園 (PSL)山下
松尾(敏) 林田 田中(静) 本秀 山口(い) 下釜 森 川内
会員14+会員外1 計15名

<行程>

12日 6:00 諫早駅裏～6:10 西諫早駅前～長崎自動車道(7:50 甘木)～大分自動車道
～8:35 玖珠 IC～国道387号線～西屋敷～9:40—10:00 津波戸山登山口駐車場
→10:30 海蔵寺(霊場の一番札所)→12:55 水月寺奥の院
→13:05—13:25 東展望所(昼飯)→13:30 津波戸山山頂→14:30 八十八番札所
→15:20 駐車場のバス～16:00 湯の里「溪泉」

13日 8:30 宿舎～8:50 夷耶馬(エビスヤバ)登山口→9:35 無明の橋
→10:05 高城(タカジョウ)→10:45 隠洞(カクレウト)
→11:05—11:45 坊中の下山口のバス～12:15—13:20 豊後高田
～14:05—15:00 ワイン工場～17:55 西諫早駅前～18:10 諫早駅裏

<感想>

2体の柔和な顔の石仏が予想以上の陰しさに 悪戦苦闘する私達を温かく迎えてくれた

12日 今回の山行は国東半島の山である。国東半島の山は数年前、田原山(鋸山)、昨年千灯岳、中山仙境を体験しているが、低山にもかかわらず岩尾根の岩稜歩きや展望が素晴らしく忘れられない山になっており、今回も楽しみにしていた。

天気もまずまずのようだし心躍らせて予定通り諫早駅裏を出発。甘木で国分さんを拾

い国道 387 号線に出たが、バスの窓外に繰り広がるこの景色が素晴らしかった！次から次に現れる色々な形をした岩峰、中には七福神の岩もあった。山の紅葉は「ますます深みを増した本当の紅葉—わび、さびの世界」とか、「色あせた紅葉」とか「セピア色の紅葉」とか皆は思い思いに自分の感じたことを表現していた。要するに華麗な紅葉の時期は過ぎてはいたが、これはこれで美しく感じた。

駐車場でストレッチ体操をした後、いよいよ津波戸山を目指した。中級健脚向きは霊場八十八カ所巡りコースで 11 名いたが私もそれに参加した。しばらく行くと一番札所になっている海蔵寺に着いたので安全を祈願した。その後も上りが四十八番札所まで、下りが八十八番札所まであり弘法大師にちなんだ二体の柔和な顔の石仏が予想以上の険しさに悪戦苦闘する私達を温かく迎えてくれた。

津波戸山が見えてくると案内板のある登山口があり、二つの溜池を過ぎ三番札所以降になるとアップダウンの険しい地形で鎖のついた急崖も随所に見られるようになった。針の耳付近では上りは下肢は勿論、上肢もしっかり使って三点支持をきちんと守った。下りは大きな石の所では足を置く場所を前に下りた人から一つ一つ教えて貰った。それでも危険な所では国分さんにロープで引いて貰って下りた。お陰で家に帰ってから腕と大腿部が凝った。腕が凝るのは初めてで大腿部が凝るのは久しぶりであった。



大きな弘法大師像が立っている所を過ぎると避難所を兼ねた水月寺奥の院があり、出水は「硯石水—ケンセキスイ」とよばれ飲んでみると美味しかった。習字をする人はこの水で字を書くと上達するとのこととで汲んでいる人もいた。

絶景が満喫できる津波戸山展望所で今にも降りそうな天気を気にしながら遅い昼飯を摂った。山頂の三角点はここから五分の所にあり尾根の突端からの景色も素晴らしかった。下りは二時間弱でバスの中へ。湯の里「溪泉」でゆっくり温泉を楽しみ、次から次に運ばれる御馳走を食べて夢の世界へ。

13日 夷耶馬登山口からすぐ川を飛び越えるという試練が待っていた。前回は夢中で飛び越えたが、今回は昨夜の雨で濡れていて自信がなかったので川へ下りてクリアした。次の試練は中央で二枚の石を接ぎ合わせて三mの岩の目に渡した「無明の橋」である。反対側は千尋の谷であるが、私は二回目ということもあり千尋の谷は見ないようにして難なく渡ることが出来た。他の人もロープを渡して貰い全員無事通過した。

中山仙境も昨日の津波戸山同様アップダウンの険しい地形で鎖場も多く、弘法大師の石仏のミニ霊場もあった。やがて中山仙境のピークである高城についたが、山頂には天照皇大神の石碑と弘法大師像があつた。景色は高くなるにつれ良くなり所々にオオコマユミの真っ赤な紅葉が目についた。然し、道は益々やせ細り一時も気が抜けない。



急崖を鎖につかまり下ると隠洞と呼ばれる大きな洞穴があり四組の弘法大師像が祀られていた。11 時過ぎにはバスに戻り、近くの霊山寺や実相院を見学した。

豊後高田市の「昭和の町」は商店街一帯が昔懐かしい物が売られていた。中には懐かしい歌をギター演奏でリクエストに答える店もあった。私達 6 名は井上ドライバーの後に付いて行き、昭和 5 年創業で 55 年以後値段を据え置いているという食堂へかなり待って入った。350 円のちゃんぽんを食べたが長崎の味と違ってはいたが美味しかった。それから童心に戻って棒に巻いた水飴を舐めながら「黄金バット」という紙芝居をみた。

試飲が主な目的？でワイン工場を見学の後予定より早く諫早に着いた。

今回の山もとても印象深い山で、山は決して高さだけでなく一つ一つ個性溢れる表情を持っていると強く思った。この山を計画してくださった川原さん有難うございました。皆様お疲れさまでした。
(川内 記)



12月20日(日) 雲仙縦走(妙見、国見、普賢岳)納山登山

<参加者> 鎗水 井星 山口(会計) 瀬戸口 田村 中野 山下 川原 国分
中尾 松尾 金丸(会計) 酒井 本秀 森田 中須賀 田中シ 計17名

<行程> 西諫早 7:30~登山口 8:40~仁田峠 9:50~アザミ谷 10:15
~紅葉茶屋 10:45~普賢岳 11:20~紅葉茶屋 11:45~国見分かれ 12:10
~国見岳 12:40~妙見岳 13:15~仁田峠 13:50~温泉(よか湯) 14:30
~諫早着 16:30

<感想>

温度計はマイナス4度C、今年のストレスが一気に昇華されたような気がした

家を出るときは小雨が降っていたが、すぐにやみ、小浜を過ぎ雲仙が近付くにつれ、次第に雪化粧を施した風景へと変わっていった。バスが雲仙の温泉街を過ぎ、妙見駐車場へと進んでいるとき、積雪でタイヤがスリップし、横滑りしそうになったので思わずヒヤリとした。そこでバスを予定より早めに降りることに。

準備体操後1・2班に分かれ登山開始。

ロープウェー駅でアイゼンを装着。

今年の1月の登山の時とは逆コース。

10~15 cmある雪を踏みしめて登る。普賢岳山頂は風が強く、当初昼食をとる予定だったが、各々記念撮影だけにとどめ行動食で次なる国見岳へ。木々は見事に真っ白で、まるで霧氷のトンネルを通っているようだった。国見山頂につくと温度計は-4℃を示していた。今回の山行では絶好のロケーションに恵まれたといえるのではないだろうか。



汚れのない真っ白な雪を踏みしめることができ、見渡せば木々の枝に積もった雪！ユキ！ゆき！今年のストレスが一気に昇華されたような気がした。帰りは冷えた体を温泉で温め、バスの中で冷たいビールをグイっと。今回も楽しい山行となった。あ！「今日のビールはスーパードライだった～♪」と是非書いてくれと言われていたのを忘れてました。(笑)

今年一年、元気に山に登れたことに感謝!!
みなさん来年も楽しい山行としましょう!!



(田中シ 記)

12月29日(火)～1月2日(土) 白馬スキー

〈参加者〉 川原 浦田 田村 外(藤井)

4名

〈感想〉

12月29日(火)

「雪と温泉まみれ」が目にとまり、白馬の所在地もわからないまま「冬山登山じゃない」というのが今の自分の体力に丁度いいかな、と魅力を感じ即座に申し込んだら快く受け入れて頂いた。メンバーは川原さん、名古屋在住の藤井さん、浦田さん、田村の四人である。三人共スキーを楽しまれる予定で、藤井さんはライセンスを取得すべく参加されて特訓される予定である。



12月30日(水)

山荘から岩岳スキー場に行くのに、雪を踏みしめながら12分位歩いた。白馬岳を見るためゴンドラで頂上に上がり、川原さんの案内で興奮しながら雪を抱いた、りりしい白馬の姿を眺めた。川原さん、藤井さんはスキーに専念され、私に付き合っ

て諫早駅を6時過ぎにJRで出発して、白馬駅に17時近く到着。積雪がかなりあった。

目的の白馬の山荘に到着。一般的な山荘と思っていたら、ちょっとびっくり知人の山荘で、御主人は、川原さんといくつもの海外の高山を登り、苦楽を共にされた方であった。部屋はヨーロッパ風の暖炉、コタツ、大型ストーブがあり我が家よりずっと温かい。

夕食は御主人の心のこもった家庭料理で食卓が賑わい、ある程度雰囲気が盛り上がったなら、コタツへ移動して宴会が続き、夜も更けていった。

浦田さんが「スキーは登山にも役立つ」と言って下さり、この温かい一言で、スキーをやらないいつもの田村は、人一倍好奇心が強いからスキー学校に入学を決心。すぐゴンドラで下山しスキー用具を身に付けたが、靴の硬さ重さが半端じゃない。

一言一言先生の説明を理解しながら、体も心もリフレッシュ感で一杯になり、ペンギンより少しましになり、あっという間に二時間が過ぎた。又明日挑戦しよう。山荘に帰り、温泉で体を温めた。

12月31日(木)

次の日もゴンドラで。樹木が高いから見事な樹氷を見ることが出来た。

今日は川原さんの指導でスキーを習ってみたが、二日目でもまだまだ足運びだけでも難しい。雪もひどく降り出したが、少し休んでから又練習を始め、川原さんのうまい指導でどうにか少しだけ滑れるようになった。山荘の途中にある温泉で体を温めて戻る。

夜の山荘には、皆様の知人で、8千メートル級の山をいくつも登頂されている倉橋さん夫妻が見えておられた。天候を見越し、予定を前倒しして一日早く下山され山荘にたどり着かれたとのこと、さすがベテランの決断である。この決断がいずれの山行でも大事な事に思えた。再会をお互いに喜ばれ、歌、おどりと和やかな夜が更けていった。神社が近くにあると教えて頂いて、今年も後30分で終わりだという時に、初詣に6人で出かけ、各々祈ってきた。

1月1日(金)元旦

藤井さん帰省の朝は吹雪いていたけど、夕べの神社へ一人で行った。藤井さんの指導で、スノーシューを付けてスキー場の林に横一線で行くことになった。

<ここでスノーシューの説明>

スノーシューは字のごとく、雪の靴だが、新雪の場合雪はフカフカでズグズグと体がめり込まなく、登山時は逆八の字で、つま先で蹴るように進み、下山時は、踵に重心を置いて足を運ぶようにする。いざ実践の段階になると・・・。

ヒザまで位の雪で簡単には体は進まない。しかしながら止まるわけにも行かなく、(ここで待っています)って心の中で思った。しかしここで一発！御館山訓練が体を奮い立たせてくれた。ある程度坂を登ると又急坂を下山である。上るより下りは少し楽に思えた。初体験は人間誰でもフレッシュ感が出る。

温泉に入り、藤井さんをスキー場で見送り、再会を誓った。

1月2日(土)

諫早へ帰省すべき朝は、太陽が顔を出し、キラキラと積雪がまぶしく輝いていた。

山荘の御主人に別れを告げ、諫早の家路に夜8時過ぎに到着した。

今回の白馬旅行は、挑戦する事、あきらめない事が生きていく上にも必要であるんだなって、つくづく思い、日常の生活に「心」「技」「体」とバランスを取り入れながら、温かみのあるオレンジ会員と共に、山を愛しながら今年も乗り切りたい気持ちが一層深まった。御一緒いただいた川原さん、浦田さん、藤井さんにすっかりお世話になりました。山行の時はよろしくお願ひします。

(田村 記)



2010年1月1日(金) 初日の出参拝 真崎城跡

<参加者> 福岡、瀬戸口、中尾

会員3名

<感想>

6:30 ふれあい会館集合、まだ薄暗く集合場所には人影もなく、あまりの寒さに、会館の周りを小走りに回っていると遠くに人影が見えた。

福岡さんと瀬戸口さんだった。新年の挨拶を交わしながら後の人達を待たせたが来る気配がなく6:40分出発、ヘッドランプを付け真崎城址(70m)へ向かった。昨年の暮れに真青会、地元の方々が階段の整備をされて大変登りやすく6:55分山頂着、持参した赤飯、ミカン、お酒、などを、お供えして参拝。例年通りシートを張って



まずは乾杯、今年は参拝者が少なかったが、酒、ビール、などが沢山あり、小雪交じりではあったが寒さを感じなくなった。

時間は7:25分この分ではご来光は拝めないと言う事で暫くしてから下山し、途中の志岐ドンサンに寄って参拝をして解散する。8:30

今年も1年健康で登山できますように……乾杯

1月10日(日) 多良岳・金泉寺参拝・五家原登山

<参加者> 1班 川原(PL) 井星(SL) 岩永サ 山口イ 川内 山本 下釜 佐原 森
2班 松尾ト(PL) 田中(SL) 佐原 林田 田村 小島 江崎 兵庫 中須賀
計18名

<行程> 駅裏7:15～西諫早駅7:30～広域林道多良岳登山口8:30 登山口8:40
→金泉寺9:10→多良岳9:40→五家原岳12:10—昼食—12:40 発
→横峰越13:25→林道五家原分岐13:50

<感想>

本年最初の参拝登山、どんより曇っているが雨の心配はなさそう、西諫早駅を予定通り出発。登山口着。あづま屋広場で松尾さん指導で皆を笑わせながら準備体操、2班に分かれて私が1班のサブを務める、戸惑う。

多良岳登山に出発。勾配のある古い石畳、表面が濡れて凍って滑りやすく注意して登る。15分ぐらい歩いて衣服調整したりして登りはじめる。





ながら懐かしい。5分ぐらいで県境の石鳥居に着いた。役の行者の石仏に手を合わせて急な石段を登る。小さなハシゴや鎖場を通り急な坂を登ると稜線にでた。雪がうっすらと地面は凍っているようで注意しながら歩く。多良岳がすぐそこに、石鳥居をくぐり石段を登ると多良岳権現神社。ガスがかかり視界が望めず、記念撮影をして下山する。

山小屋で思いがけない、富永さんおもてなしのぜんざいの接待、薪ストーブを囲み、おいしいぜんざいを頂いた。

これから五家原縦走を目指して1斑から出発、なだらかな道で歩きやすく霜柱を踏んで進む。あっという間に西野越え、下って登ったりのアップダウン、難所のガレ場、ロープに捕まって急登を上り詰め、岩場のやせ尾根を歩いて中岳で小休止。

西側はシャクナゲの群落、何故か今年はツボ実がほとんどついていない。2つの最後のピークを登って五家原岳の頂上の広場にやっと着く。1人先着の方が食事をしていた。頂上から視界が悪い。かすかに経ヶ岳・多良山系が見える。

食事をする。先着の方が前オレンジに籍をおいていたと言って川原さんに話しかけて来られた。川原さんお知り合いのようで。



で聞くと大村の方に待機していたそうです。

車に乗り込んで、のんこの温泉へ。良い汗を流して帰路に。

今日は無事、何事もなく楽しい山行でした。皆様お疲れさまでした。（井星 記）

急に明るく開けた新しい林道に出た。今度立派に再建された本堂に参拝する。本堂が輝いて見えた。県営の山小屋へ。管理人の方が快く迎えて下さった。川原さんに聞くと、オレンジの富永さんのお兄さんとのこと、皆さんザックを山小屋に預けて、佐原さん、江崎さんは残る。16名で多良岳へ。

登山口の石仏に手を合わせ、うす暗い道を歩くとザクザクと音が、霜柱を踏み



寒いので早めに1斑出発、テレビの鉄塔を右に回り黒木横峰越の立て札を左り折して、急峻な岩尾根を一気に、シャクナゲの群落があつたり、シヤラの木の自生地もあつという間に横峰越、小休止。左り折しばらく下ると林道に出た。

道を横切り、杉林を歩いてコンクリートの舗装道路の林道に、両側は杉の植林帯が続く。コンクリート舗装道路もところどころで後は砂利道を下る。

多良横断道路分岐に出た。マイクロバスが止まっているはずが来てなかった。かなり待つ？ 後



白馬鑓ヶ岳(左)と杓子岳(右)